

火災後のまちづくりの柱

「鈴木やす子議員」火災後のまちづくりについて質問する。その前に、私が生まれ育った北海道の旭川市についてひとこと。昨年、旭川市は、市立「旭山動物園」の入場者数が日本一に

なったことで全国的に有名になった。

人気の要因は、特別なアトラクションなどを整備するのではなく、それぞれの動物らしさを生かす飼育と展示を工夫すること。動物た



「特区」のドブクが好評。華川町花園の山形克巳さん。

ちはもちろん、世話をする係員も、ともに生き生きと輝き、それが訪れる人を楽しませることにつながった。ここにまちづくりの大きなヒントがある。市民アンケートの結果からも明らかのように、北茨城市民のいちばんの自慢は、豊かな自然である。これを生かすまちづくりこそが、北茨城市の発展方向だと確信する。

が荒れようとしている。いかに歯止めをかけるのか、農林漁業を元気づける具体策を問う。

市トップの報酬の削減割合

「鈴木議員」新年度の予算案では、人件費のカットが提案されている。職員が0・4カ月分の賃金カット、市長・助役・収入役・教育長の四役は1・2カ月分が報酬カットされるといふものである。この数字をみた市民からは、末端職員の賃金を削るからには、四役の報酬、特に市長はもっと削っていいはずだという強い意見が多数だされている。

このような声について、市長はどう受け止めるのか。「市長公室長」市長の現在の報酬は81万7800円である。県内の他市長と比較すると、最高は水戸市長の107万5000円、最低は結城市の68万円で、公約で削減した2市長をのぞき平均は84万7000円となっている。現報酬は県平均以下であり、さらに削減することはいかなるもの



日本共産党が独自に取り組んだアンケートの結果も示しながら質問する鈴木やす子議員

かと考える。「市長」報酬が高いのか低

いのか、いろいろな意見がある。

巡回バスの改善について

「鈴木議員」巡回バスが多くの市民に歓迎されている。いっぽうで、以前から取り上げているように、さまざま改善要望も出され、すでに実現されているものもある。

見を求めていくことをいっそう重視すべきである。そうした取り組みを通じて、現在は不便だと感じている市民にも期待をつないでもらい、ひいては市の施策、まちづくりにも心をよせてもらうことにつながるのではないかと。

期待が大きく要望もつよいだけに、それを受けての検討内容や結果について、また今後の段取りなどを当局が住民に知らせ、広く意

「市長」再評価委員会で検討もし、いっそうPRに力を入れていきたい。